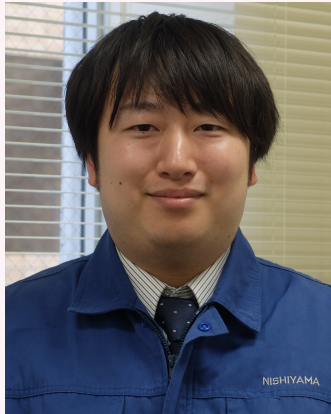


先輩社員に聞く電気工事の魅力



工事現場でのコミュニケーションは
成長するためのチャンス

鳴尾 祐太郎

西山電気株式会社
工事部

2012年3月卒業 同年4月入社

出身校 国士舘大学・理工学部電子情報学系

就職活動はどのように行いましたか？

鳴尾 就職課の担当者に相談をし、インターネットや就職情報誌などを参考にして、数社の電気工事会社を選びました。その後、すべての電気工事会社の企業説明会に参加して、候補を絞っていきました。

企業選びの際に、何か基準となるようなものはありましたか？

鳴尾 大学の卒業研究では、太陽光発電システムを卒論のテーマとしていたので、そうした知識を生かすことのできる企業であることが最も大きな条件でした。それ以外では、本社が東京もしくは首都圏にある、ということを条件に入れていました。

西山電気に入社した動機を教えてください。

鳴尾 大きな動機としては、工事部門、販売部門ともに太陽光発電システムを取り扱っていたことが挙げられます。それと会社の歴史です。西山電気のホームページには、2019年で創業100年を迎えると書かれていたのを見て、これほど長い期間にわたって会社が存続しているということは、それだけ企業体力があり、得意先からの信頼も厚いのではないか、と魅力を感じました。

現在は、どのような現場を担当されているのでしょうか？

鳴尾 デパートの改修工事現場で現場代理人として、職人の方に対する作業の指示や資材の発注並びに安全の管理など、一通りの業務を任されています。

現場は後輩と二人で作業を進めています。後輩の教育も任されているので、本人の成長の手助けをするためには、どのような教え方が良いのかと常に意識しています。

改修工事は新築工事とは違う難しさがあると思うのですが、実際に経験をされて何か感じることはありますか？

鳴尾 改修工事の場合、今回のデパートのように、普段、人の行き交いが多い現場も少なくありません。そのため、作業時間が限られてきますので、工程管理に対して意識をより強く持つようになりました。設計図面においても、既存の建物をベースに描く必要があるため、新築工事とは違う考え方が求められます。

現場代理人にはコミュニケーション能力が必要ですが、入社当初は様々なことで不安を感じる中で、コミュニケーションについて悩んだことはありましたか？

鳴尾 確かに専門用語が飛び交う現場では、話の内容がなかなか理解できないケースもあるなど、最初は多少、戸惑った部分もあったと思います。

ただ、できるだけ早く専門用語を理解したいと思っていましたので、そのために、現場の方たちとコミュニケーションを図り、専門用語などについて、いろいろと勉強する必要がありあります。

現場の方たちとコミュニケーションを取らないということは、勉強できるチャンスを自ら逃してしまうこととなりますので、非常にもったいない話です。コミュニケーションを取ることに不安を感じるのではなく、どのようにすればより多くの方とコミュニケーションを取れるのかをずっと考えていた記憶があります。

仕事をしている中で、どのような時に喜びを感じますか？

鳴尾 担当した建物を見た時です。ある種、自分の努力が一つの形となり、建築物として目に見える形で残るといえるのは、建設業でなければなかなか味わうことができない感覚だと思います。

それ以外ですと、皆さんも感じられているはずですが、建物に初めて電気が点灯した時で、何回経験しても感動しますし、得意先から仕事内容を評価してもらい、また宜しくと、言われることも嬉しいです。